

福清会の成り立ち

およそ 50 億年前、我々の居る天の川銀河(直径 10 万光年)の中心から 2 万 8 千光年の片隅に薄く広く漂っていた分子雲があった。

その後この周辺で(周辺と稱しても何光年も或は何十光年も離れていたかも知れない)何回かの超新星爆発があったと推定されておりその衝撃波の影響を受けたこの分子雲が自らの中心に集まり乍ら回転を始め中心の密度が高まって遂に核融合が始まるに至った。

原始太陽の誕生である。その圧倒的な重力と放射の力で分子雲(若干の岩石や氷塊も含む)の 98% は中心の原始太陽を構成し残りの 2% が原始太陽の回転に歩調を合せ周囲の宇宙空間を円盤状に周囲するに至った。

この原始太陽を中心とした周囲の円盤はその後多くの変動と進化を伴い乍ら合従連衡し原始太陽からの優しい太陽風に守られると共にその強い重力によって安定な軌道を回る系を形成し天の川銀河の中でも極めてユニークで奇跡的な存在となった。今から 46 億年前の太陽系の出現である。

美はこうした途方もなく長い又は時代が進むにつれて技術革新の積み重ねによる新しい発見 発明が加えられる出来上がったもので全体としては未だ仮説に近いところがある。……

「福清会の成り立ち」にも畢竟太陽系の誕生に似たところがある。

私の知る限りでは、その制定が何時如何なる経過で成り立ったのか定かではない。又何人かの先輩の方々同輩後輩の諸兄にお伺いしても要領を得た答へはない。…… 福田先生の残されたご自伝「続真昼の星」の中に只一ヶ所文理オ9回卒業(昭和36年)の大島宣天氏が添く係わったであろうとの示唆があった。

私の手許にある断片的な資料と私自身が学生時代におつ

きあいをしていた大島氏の情熱と実行力が福清会立ち上げの原動力となつたのは確かであろうとの推察に留めおくことに致した。

更に当然の事乍ら成立の時期は福田先生が埼玉大学に初めて赴任された昭和29年(1954年)以後であり文理学部理学科化学教室の福田先生の門下生のうち8期から12期頃の学生の在学中かその卒業後であろうと推測される。

福田研 8期生(昭和31年4月～昭和35年3月)

伊勢悦子 柳沼尚志 山崎圭治

9期生(昭和32年4月～昭和36年3月)

大島宣夫 中島千恵子 竹内正 前田福太郎 安田義行

10期生(昭和33年4月～昭和37年3月)

相川照雄 杉崎守弘 竹村伊三夫

11期生(昭和34年4月～昭和38年3月)

石井淑夫 熊倉徹 黒須収之 丸山徳子・坪谷隆夫
高田定佳

12期生(昭和35年4月～昭和39年3月)

加藤定一 有藤駿 鈴木正昭 高橋弘 八田有伊
藤村重之

又この期間中 学生実験や卒業実験の手助けをされていた職員の高山義泰氏 藤田和子氏 後に研究室の教授を拜名された柴崎芳夫氏 中原弘雄氏も多かれ少かれ立ち回りに関係していると思はれる。

福田先生は埼玉大学に赴任されて直ちに物理化学の講堂を担当し、卒研の指導をされると共に福田節と稱するたおやかなクラシックの名曲を耳にする稀な名講義で学生達を魅了し続けた。その一方で山岳部の部長 化学教室の中での

フィルムファイルグループの創設と指導、化学教室の機関紙「ケミカー」の内容指導を為され御多忙を極めておられた。

(注) フィルムファイルグループ

化学教室の中の山好きの人達(福田先生の影響と当時発表された井上靖の山岳小説「氷壁」の話題で登山ブームが起きた。)が自由に登山やハイキングの山行を楽しむ仲間が集まりで山岳部の様な激しい登山はしない文字通り山に親しむグループである。化学教室から始まって後に理学科所属の物理学教室、生物化学教室の人達も加わった。化学教室のメンバーは福田研究室以外の人も福清会に名を連ねる人が多勢いた。

先生が清新の気概に溢れていれば、学生も勉学にもグループ活動にも活気に満ち発奮とじているのは当然で化学研究室は理学科の中で群を抜く存在であった。就中、その活気の源である福田先生を頭上に見る物理化学の門下生は事を為すに当たっての連帯意識、結束力が強く卒業実験中の上級生の徹夜実験を手伝い、飯を作ったり、寝食を共にする山行で友情を深めた。

又当時の日本は暗い戦争(敗戦)の惨禍から立ち直りつつあり「もはや戦後ではない」と自らを語り、幾つかの夏のニュースも見られたがGATTへの加盟、国連への加盟が承認された国内では南極昭和基地の設営成功、東海村での原子力エネルギーの活用技術の成功、カラーテレビ放送の開始、北陸トンネルの開通(当時世界最長)、日章丸(世界最大のタンカー)の進水、米ソの人工衛星打ち上げに遅れず下からペンシルロケットからのロケットの研究が進み始め等、概して活気のあるニュースに溢れた。

以上の様な背景の中で時期は明確に特定されないか

物理化学教室又はその延長上にある基礎化学の先生職員
の方々 OBや学生諸氏により福清会は誕生した。
~~発起人~~会や期成同盟の標は物々しいものは存在せず
ここにあるのは(福)田(育)成先生の強い魅力即ち人間愛
家族や教子の成長を見守り育てる深い愛情 自然に對
する畏敬の念、物事に率に真摯に取り組む姿勢 ことから一
体とする人間像に引き寄せられた人々が太陽の恩恵に
あづかる如く必然的に自然に生まれたのが福清会だと
言えよう。